

監視王Ior及び監視王Ⅲの電流チェック方法

Io検出である「監視王Io」「監視王V」は通常のリレー試験機から出力させた電流でチェックが可能です。Io検出を行う「監視王Ior」「監視王Ⅲ」のチェックには、電源位相をあわせる必要があります。弊社「LB-5」のELB活線試験モードを使用することで、測定電路電圧を基準とした電流を任意に出力することが可能です。出力電流は電源(電圧)と同期されます。

使用試験器について

- ・一般のGR用試験器では電圧に対し、同位相の電流を出力させることが出来ないためIor監視装置のチェックは出来ません。(Ioのみ可能です。)
- ・ELB試験器でも「ゼロクロス出力仕様の機種」「電流出力を任意可変出来ない機種」では対応出来ません。
※現行市販品での対応機種は「LB-6」となります。

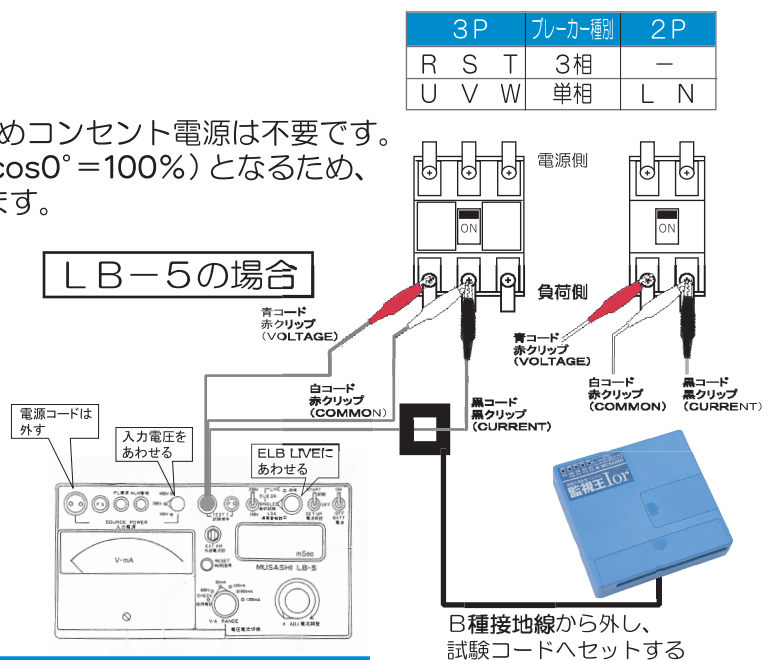
試験結線図

LB-5を使用し、校正電流を発生させます。
赤⇄白クリップより電圧(電源)を取り込むためコンセント電源は不要です。
黒⇄白に流れる電流は入力した電圧と同位相($\cos\theta = 100\%$)となるため、 $I_{or} \cdot I_o$ 共にLB-5で設定した数値で検出されます。

〔基準電圧の取込み箇所〕

- ・単相は専用コード(監視王Ior)又はコンセント(監視王Ⅲ)で取り込んだ基準電源
- ・三相はMVA-3で設定した基準電源

※必ず、測定対象のトランスと同回路から基準電圧を取込んで下さい。



※注意
漏電ブレーカーへ接続する場合は必ず白・青クリップを負荷側に揃えて接続してください。試験電流により漏電ブレーカーが動作する危険性があります。

電流チェックを行う監視王の電流センサーはCURRENT(電流出力端子)のコードへクランプして下さい。
COMMON(共通端子)へのクランプでは正しい校正値を得られません。

動作電流値の確認

監視王による電流値取得は以下のとおりです。

- ① 本体の電池BOX内「試験通報スイッチ」を押すことで現在入力中の電流値がメールに送信されます。(監視王Ior・Ioのみ)
- ② MBS(ムサシ・バックアップ・サーバーシステム)の「計測データ一覧」より電流値が確認出来ます。

※ 携帯端末からMBSが使用出来るようになりました。詳細はホームページをご参照下さい。

※ 本体「警報発生ランプ」はメール通報設定を行わない場合でも、最小設定である「注意」レベルに到達した時点で点灯しますので、本試験のご確認には使用出来ません。

LB-5のメーター精度は2.5級の為、F.S(フルスケール)60mAレンジを使用時の50mA出力は実質3%程度の仕様誤差を生じます。絶縁監視装置の要求精度は $\pm 10\%$ であるため実用的には十分な校正精度ですが、より精度を求められる場合はLB-5の外部出力計端子を使用するか、高精度リーククランプによる出力電流値の確認を願います。

ムサシインテックホームページアドレス <http://www.musashi-in.co.jp/>



Intelligent Technology Corporation.

株式会社 ムサシインテック

営業本部 / 〒358-0035 埼玉県入間市大字中神918-1
九州営業所 / 〒816-0811 福岡県春日市春日公園7-100

TEL: 04-2934-6034(代表) FAX: 04-2934-8588
TEL: 092-592-2161(代表) FAX: 092-592-2163

ご不明な点につきましてはムサシインテック技術サービス04-2934-3671までお問い合わせ下さい。